

V 社会的な活動

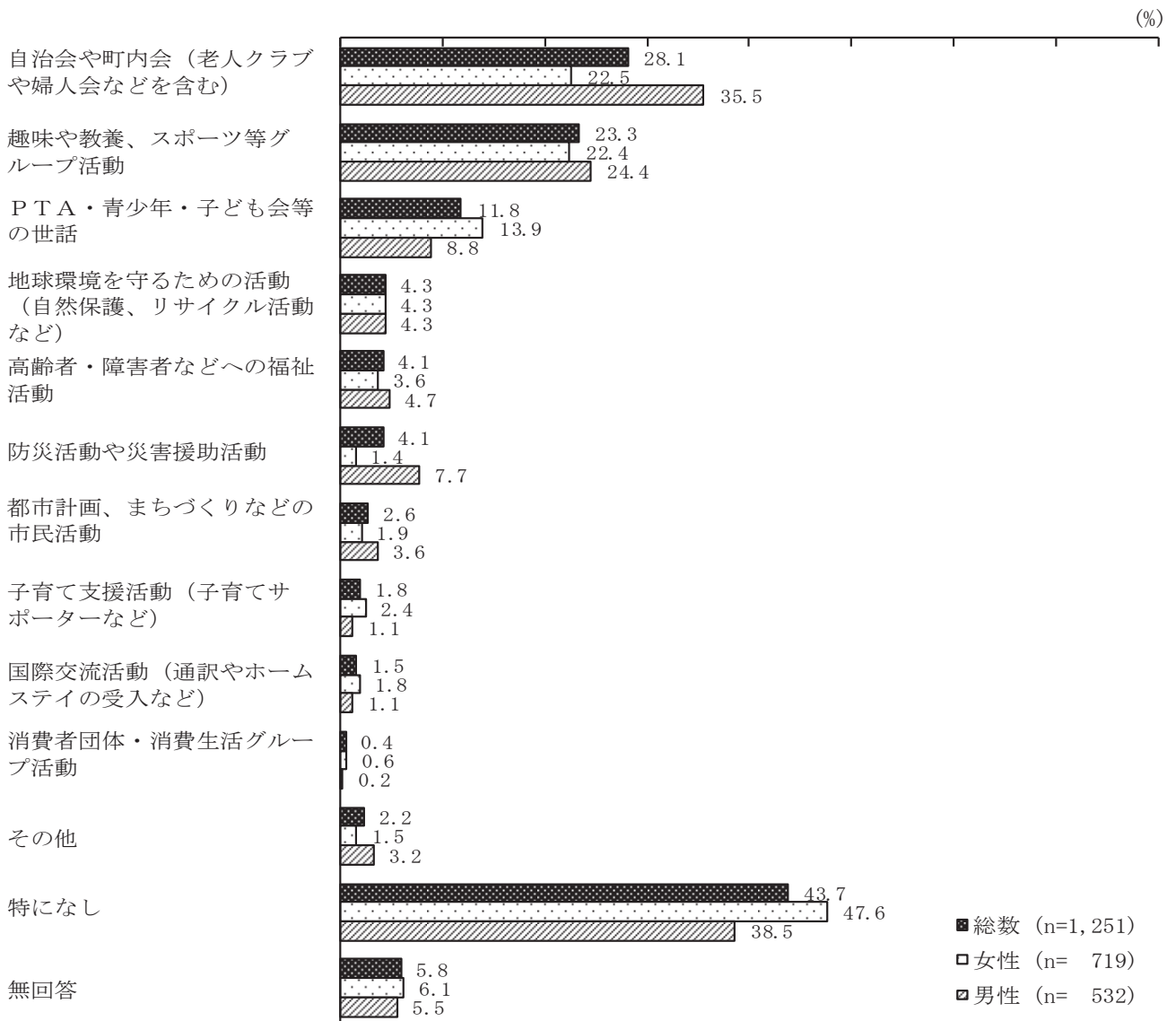
1 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

問16 あなたは団体やグループで仕事以外の社会活動をしていますか。(a)、(b) どちらにもお答えください。

(a) 現在活動しているもの (〇はいくつでも)

男女とも、現在活動している社会活動は、「自治会や町内会 (老人クラブや婦人会などを含む)」(女性22.5%、男性35.5%)、「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」(女性22.4%、男性24.4%)、「PTA・青少年・子ども会等の世話」(女性13.9%、男性8.8%)が多くなっている。加えて男性では、「防災活動や災害援助活動」(7.7%)があった。

図16-1 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向 (a) 現在活動しているもの 項目別一覧 (性別)



社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

(a) 現在活動しているもの

【性別】

「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」、「防災活動や災害援助活動」は男性の方がそれぞれ13ポイント、6.3ポイント多くなっている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は女性の方が5.1ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登中部で「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」（34.6%）、「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」（30.9%）と最も多くなっている。「地球環境を守るための活動（自然保護リサイクル活動など）」、「防災活動や災害援助活動」は能登北部でそれぞれ13.9%、「8.3%と多くなっている。

男性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は能登中部（47.9%）、南加賀（45.8%）で最も多くなっている。「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」は能登中部（29.6%）で多く、「PTA・青少年・子ども会等の世話」（16.3%）、「地球環境を守るための活動」（11.6%）、「高齢者・障害者などへの福祉活動」（9.3%）、「防災活動や災害援助活動」（20.9%）で能登北部が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は20代では8.0%だが、50代まで年代が上がるごとに多くなっている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は30代（29.6%）40代（34.2%）が多い。

男性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は40代（46.1%）で最も多くなっている。「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」は40代（15.8%）で最も少なくなっている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は女性と同様30代（15.7%）、40代（21.1%）で多くなる。「防災活動や災害援助活動」は30代（11.4%）に次いで50代（10.8%）が多い。また20代では「高齢者・障害者などへの福祉活動」、「国際交流活動」がそれぞれ7.7%と多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は家族形成期・成長前期（32.6%）で最も多く、「PTA・青少年・子ども会等の世話」は家族形成・成長前期（63.0%）で最も多くなっている。

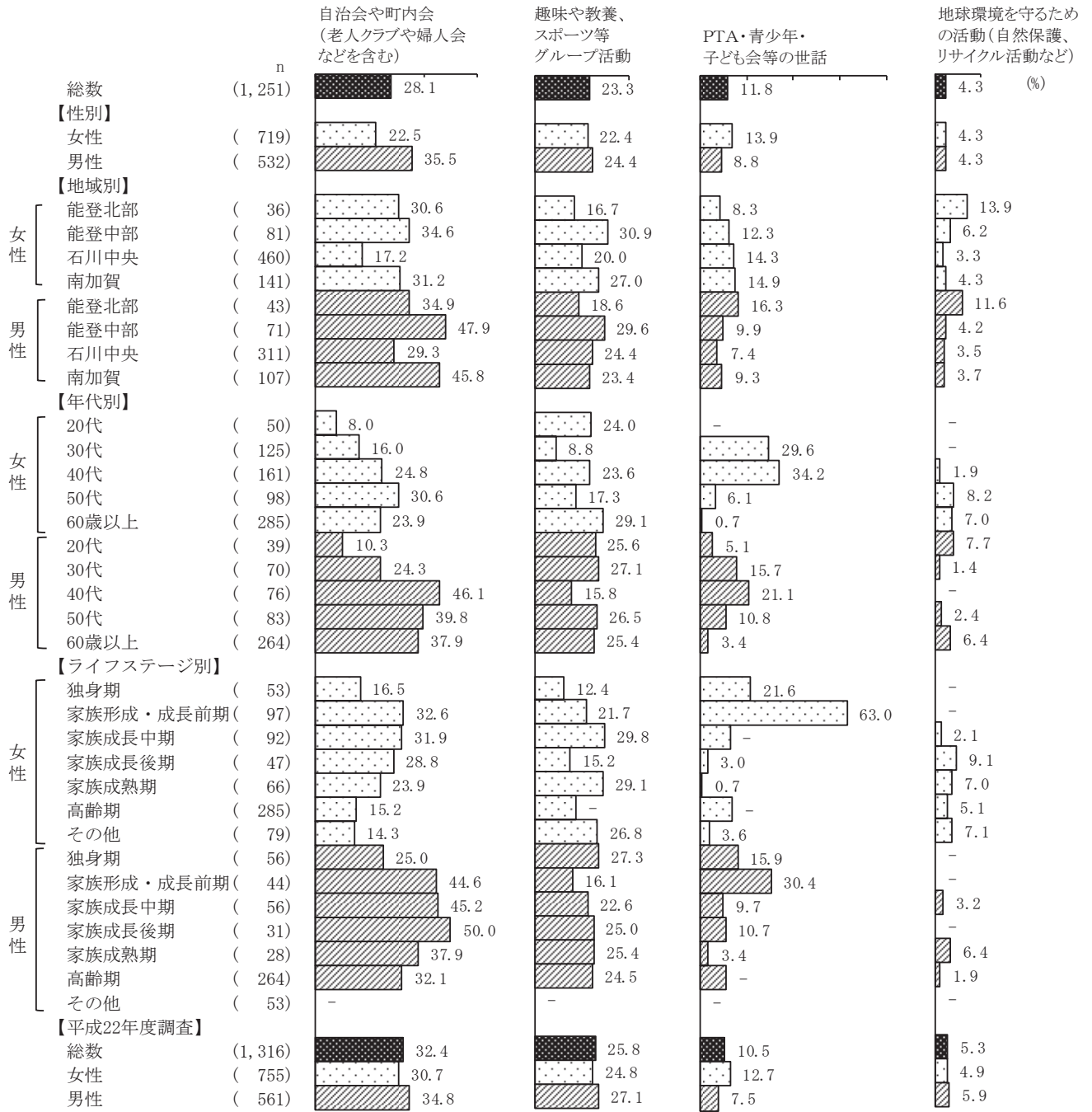
男性では「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は家族成長後期（50.0%）で最も多く、「PTA・青少年・子ども会等の世話」は家族形成・成長前期（30.4%）で最も多くなっている。

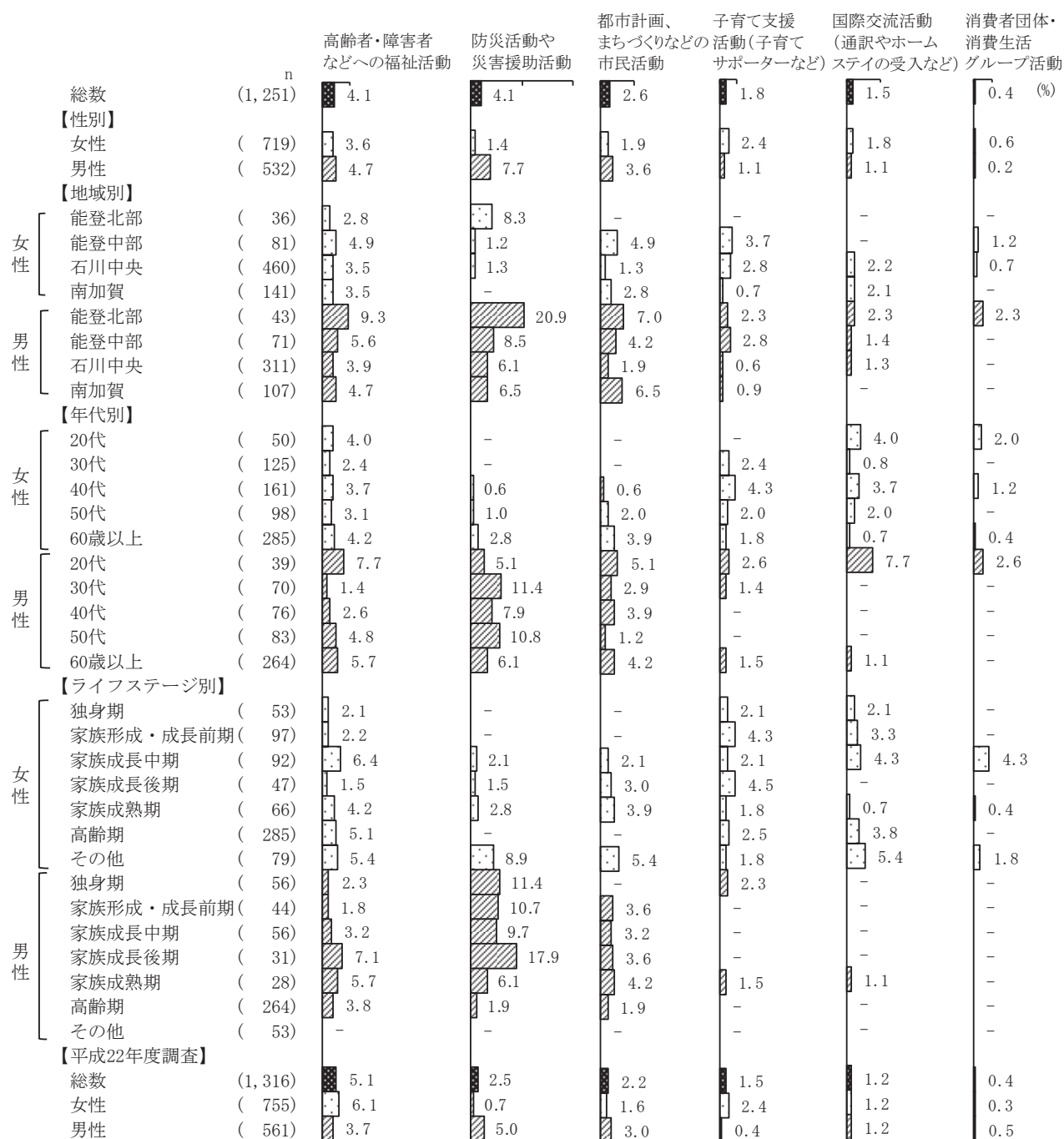
【平成22年度調査との比較】

女性において、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は8.2ポイント減少し、「PTA・青少年・子ども会等の世話」は1.2ポイント増加した。

男性において、「防災活動や災害援助活動」は2.7ポイント増加し、「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」は2.7ポイント減少した。

図16-2 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向 (a) 現在活動しているもの
(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)



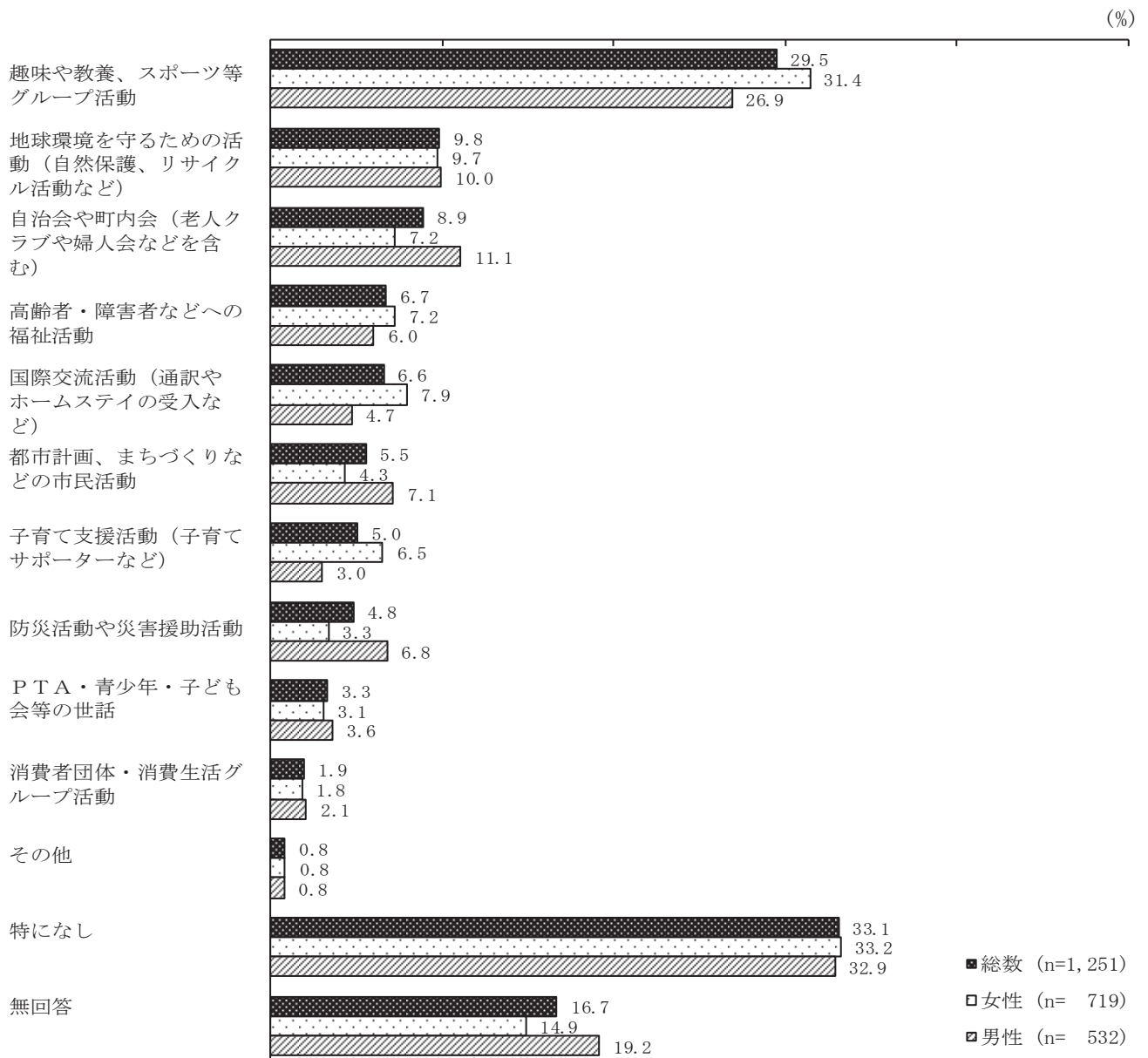


(b) 今後活動してみたいもの (〇はいくつでも)

男女とも、今後活動してみたい社会活動は、「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」(女性31.4%、男性26.9%)が多くなっている。次いで「地球環境を守るための活動(自然保護、リサイクル活動など)」(女性9.7%、男性10.0%)、「自治会や町内会(老人クラブや婦人会などを含む)」(女性7.2%、男性11.1%)が続いている。

加えて、女性では「国際交流活動(通訳やホームステイの受入など)」(7.9%)が男性よりも3.2ポイント多く、男性では「都市計画、まちづくりなどの市民活動」(7.1%)で2.8ポイント、「防災活動や災害援助活動」(6.8%)で3.5ポイント女性よりも多かった。

図16-3 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向 (b) 今後活動してみたいもの 項目別一覧 (性別)



社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

(b) 今後活動してみたいもの

【性別】

「趣味や教養、スポーツ等、グループ活動」は女性の方が4.5ポイント多くなっている。「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は男性の方が3.9ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」は能登中部（34.6%）で最も多い。「国際交流活動（通訳やホームレスの受入など）」は石川中央（8.5%）で最も多くなっており、「地球環境を守るための活動（自然保護、リサイクル活動など）」も、石川中央（10.7%）で最も多くなっている。

男性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は能登北部（18.6%）で最も多くなっている。「防災活動や災害援助活動」は能登北部（9.3%）と石川中央（8.0%）で多くなっている。

【年代別】

女性では、20代、50代で「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」が最も多くなっている。「地球環境を守るための活動」、「高齢者・障害者などへの福祉活動」は50代がそれぞれ最も多くなっている。

男性では、20代、50代で「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」が最も多く、「自治会や町内会」で30代（18.6%）が最も多くなっている。また30代、40代で「PTA・青少年・子ども会等の世話」が多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、独身期で「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」（49.1%）、「国際交流活動（通訳やホームレスの受入など）」（18.9%）が多い。家族形成・成長前期では「自治会や町内会」（11.3%）、「PTA・青少年・子ども会等の世話」（10.3%）が多くなっている。家族成熟期では「子育て支援活動（子育てサポーターなど）」（18.2%）が多くなっている。

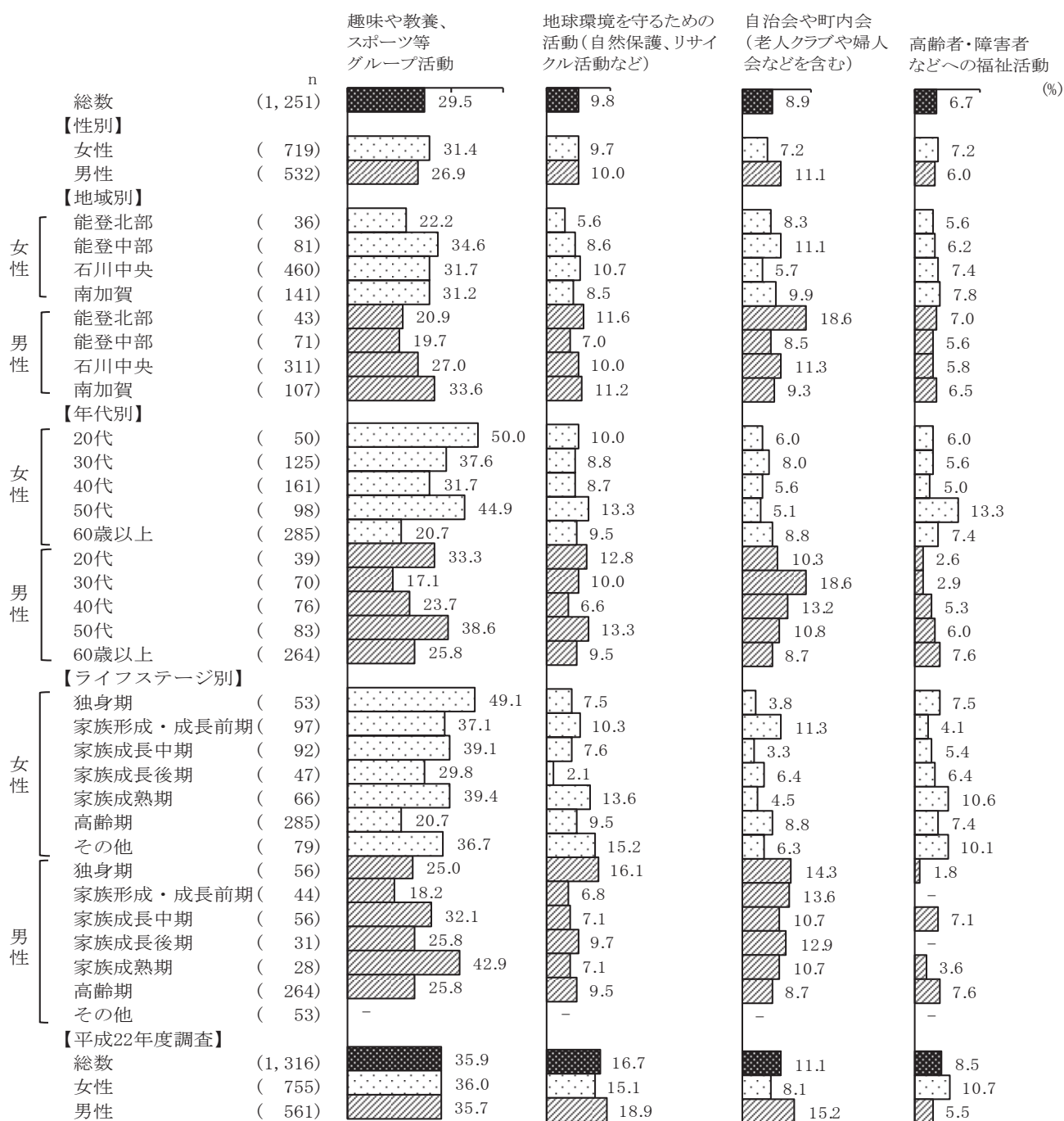
男性では、高齢期の「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」（42.9%）、独身期の「国際交流活動（通訳やホームレスの受入など）」（12.5%）、「都市計画、まちづくりなどの市民活動」（12.5%）、家族形成・成長前期の「PTA・青少年・子ども会等の世話」（11.4%）が多くなっている。

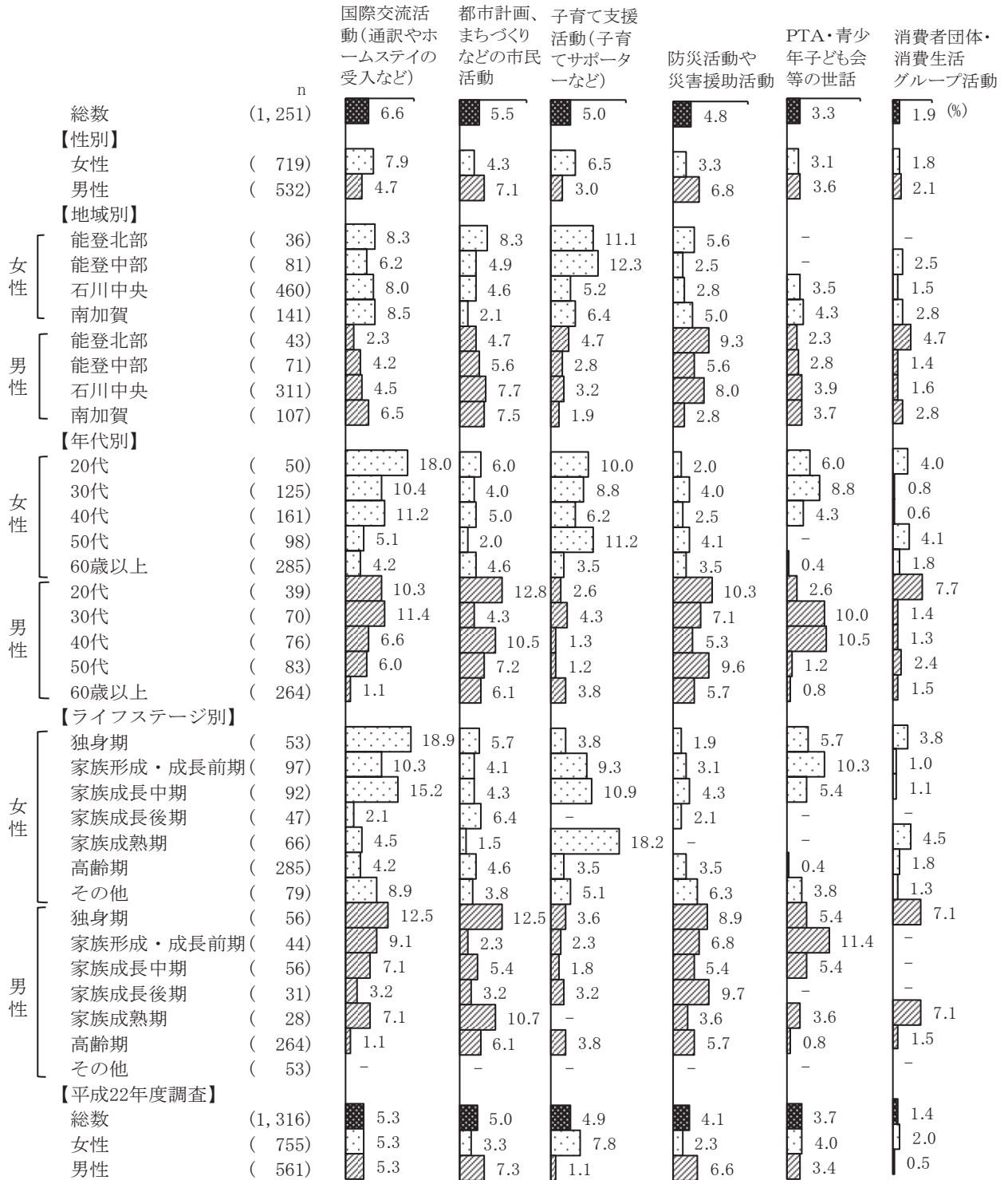
【平成22年度調査との比較】

女性において、「地球環境を守るための活動（自然、リサイクル活動など）」が5.4ポイント減少し、「国際交流活動（通訳やホームレスの受入など）」が2.6ポイント増加した。

男性において、「地球環境を守るための活動（自然、リサイクル活動など）」が8.9ポイント減少し、「消費団体・消費生活グループ活動」が1.6ポイント増加した。

図16-4 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向 (b) 現在活動しているもの
 (性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成22年度調査結果)





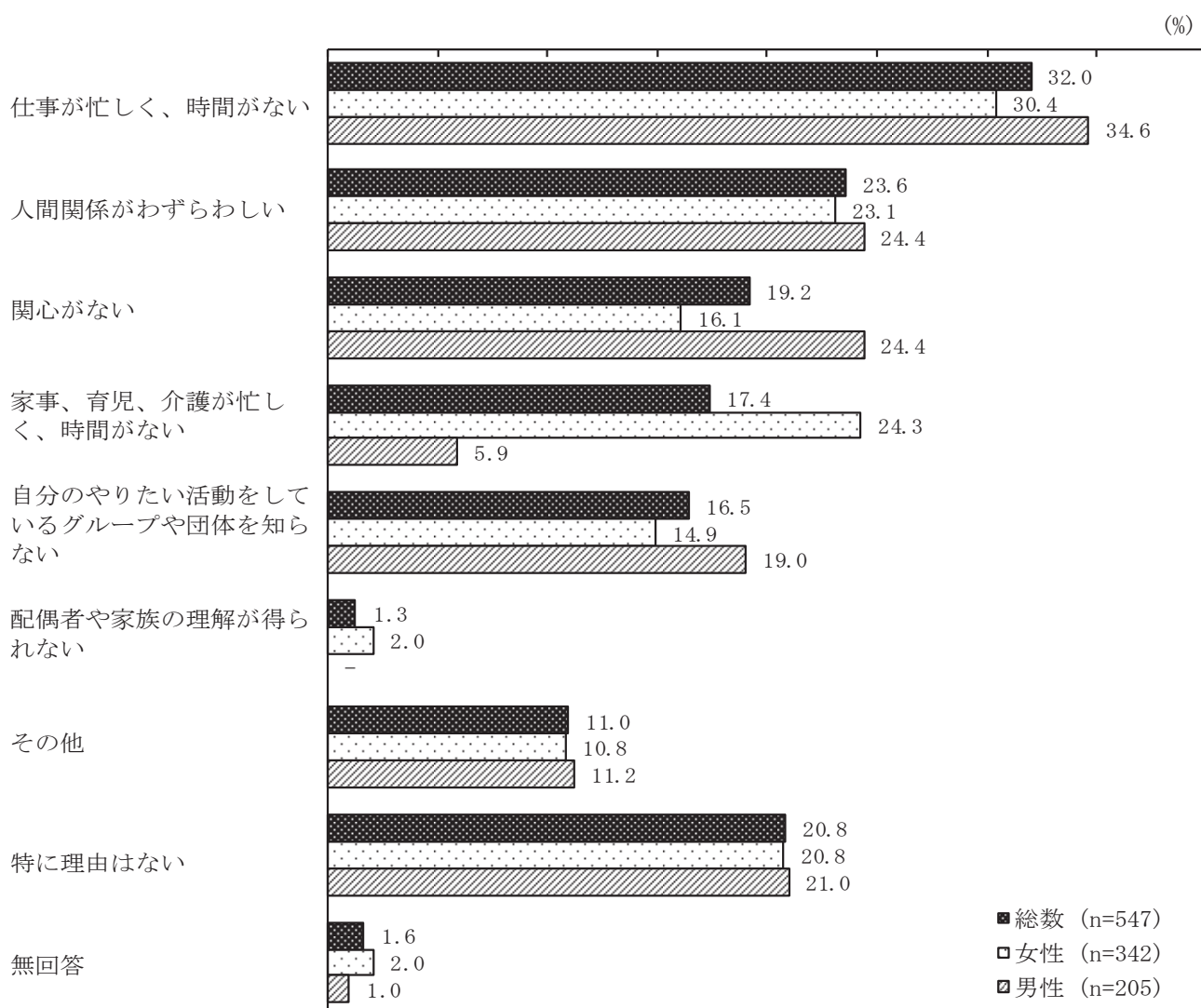
2 社会的な活動に参加していない理由

(問16 (a) で、「12 特になし」に○をつけた方にお聞きします。)

問17 社会的な活動に参加していない理由は何ですか。(○は2つまで)

男女ともに、「仕事が忙しく、時間がない」(女性30.4%、男性34.6%)が最も多かった。
 女性では、次いで「家事、育児、介護が忙しく、時間がない」(24.3%)、「人間関係がわずらわしい」(23.1%)、「関心がない」(16.1%)が多かった。
 男性では、次いで「人間関係がわずらわしい」と「関心がない」がともに24.4%と多かった。
 また、男女ともに「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(女性14.9%、男性19.0%)も多かった。

図17-1 社会的な活動に参加していない理由 項目別一覧 (性別)



3 指導的立場に女性が少ない理由

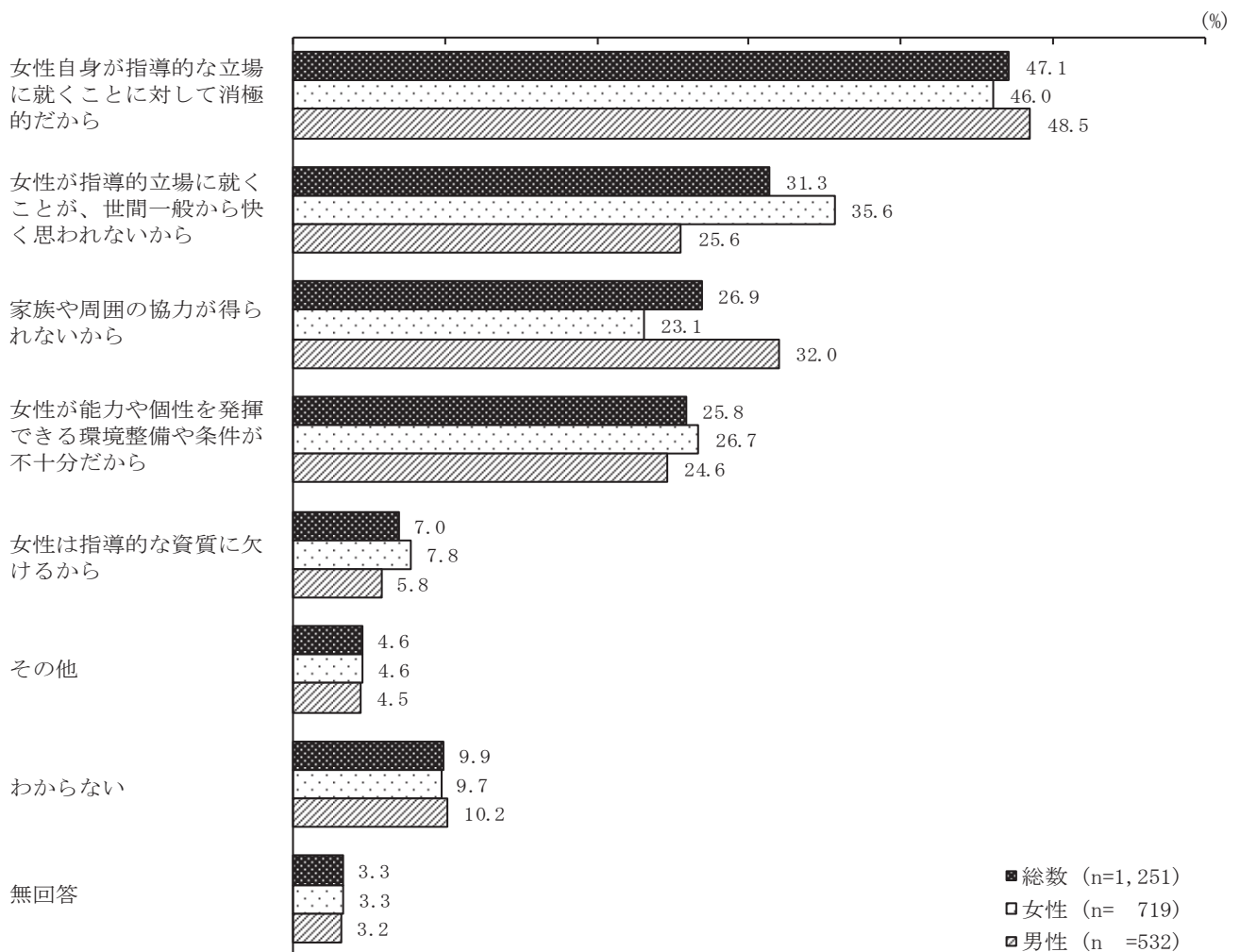
問18 地域における活動において、女性が町内会長やPTA会長などの指導的立場につくことは少ないのが現状ですが、この主な理由は何だと思いますか。(〇は2つまで)

男女ともに「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(女性46.0%、男性48.5%)が最も多かった。

女性では、次いで「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」(35.6%)、「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(26.7%)、「家族や周囲の協力が得られないから」(23.1%)と続く。

男性では、次いで「家族や周囲の協力が得られないから」(32.0%)、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」(25.6%)、「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(24.6%)と続く。

図18-1 指導的立場に女性が少ない理由 項目別一覧 (性別)



指導的立場に女性が少ない理由（性別、地域別、年代別、未既婚別、平成22年度調査結果）

【性別】

女性の方が「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」で10ポイント多く、男性の方が「家族や周囲の協力が得られないから」で8.9ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、能登北部で「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(13.9%)が他の地域より少ない。「女性は指導的な資質にけるから」では能登北部(16.7%)が最も多くなっている。

男性では、能登中部で「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(59.2%)が最も多く、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」(14.1%)は最も少ない。能登北部は「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(41.9%)で最も多くなっている。

【年代別】

女性では、20代で「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(54.0%)が多くなっている。50代では「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(36.7%)が多くなっている。

男性では、50代で「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(55.4%)、40代で「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」(31.6%)が多くなっている。

【未既婚別】

女性では、有配偶者で「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(46.5%)と「女性が指導的な立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」(37.3%)が多くなっている。

男性では、有配偶者において「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」(50.6%)が多く、次いで「家族や周囲の協力が得られないから」(33.2%)が多かった。

【平成22年度調査との比較】

「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」は男女ともにポイントは減少した。

女性では「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」が7.5ポイント増加し、「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」も5ポイント増加した。

男性では「家族や周囲の協力が得られないから」が4.9ポイント増加し、女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」は5.9ポイント減少した。

図18-2 指導的立場に女性が少ない理由 (性別、地域別、年代別、未既婚別、平成22年度調査結果)

